

当院職員による入院患者さんへの虐待事案について

令和 8 年 3 月、当院職員 1 名による入院患者さん 1 名への虐待を疑う事案が発生し、病院から関係自治体へ通報を行いました。通報内容は、当院職員 1 名が患者さん 1 名に対し、不適切な言葉がけを繰り返していたというものです。その後、自治体による調査の結果、当該行為は虐待に該当するとの判断が示されました。

当院では、これまでも虐待防止に関する研修や取り組みを実施してまいりましたが、今回の事案を重く受け止め、患者さんの立場に立った接遇や人権擁護に対する意識の徹底が、十分とは言えなかったと深く反省しております。

当院においては、過去にも複数の虐待事案が発生したことから、第三者委員会を設置し、原因究明と再発防止について外部の客観的な視点から検討を行ってまいりました。その提言を受け、“二度と虐待を起こさない、起こさせない病院”を目指す強い決意のもと、「国立病院機構大牟田病院ビジョン」を策定し、病院全体で組織風土の改革や人権擁護・虐待防止に向けた取り組みを進めてまいりました。

しかしながら、今回の事案が示すとおり、これまでの取り組みだけでは、職員一人ひとりに対する教育・啓発が十分に行き届いていたとは言えず、再発防止に向けた取り組みを継続・強化していく必要性を痛感しております。

本事案を受け、当院では改めて人権擁護・虐待防止委員会を中心に原因分析を行い、虐待防止研修の内容・方法の見直し、倫理カンファレンスの継続的な実施、日常のケアや言動を振り返る仕組みの強化など、職員一人ひとりの人権意識を高めるための取り組みを、これまで以上に徹底してまいります。

患者さん、患者さんのご家族、地域の皆さま並びに関係機関の皆さまに、多大なる不安やご心配、ご迷惑をおかけしましたことを、心より深くお詫び申し上げます。

当院は、これまでの事案を決して風化させることなく、「国立病院機構大牟田病院ビジョン」に掲げた理念を改めて職員全員で共有し、再発防止に向けた取り組みを今後も継続的に実行していくことで、信頼回復に全力で努めてまいります。

令和 8 年 8 月 4 日

独立行政法人国立病院機構
大牟田病院
院長 川崎 雅之